

令和4年度

# 社会福祉施設事業報告書

社会福祉法人 本郷福祉会

特別養護老人ホーム梅菅園

梅菅園短期入所生活介護事業所

梅菅園通所介護事業所

梅菅園居宅介護支援事業所

# 本郷福祉社会の理念

ほほえみ  
愛するひとには笑顔がある

私たちは、ご利用者を大切な愛するひとと考えます  
私たちは、質の良いサービスを提供してご利用者の笑顔が  
満ちあふれている施設をめざします

## 行動指針



ご利用者の人権を尊重し、  
愛情をもって寄り添います



思いやりと笑顔をもって  
安全・安心なサービスの  
提供をします



地域の人・ご家族との絆を  
大切にしてご利用者の生活  
を豊かにします

令和4（2022）年度も新型コロナウイルス感染防止対策に努めてまいりましたが、クラスターが発生し8月中旬から9月末日までの約1か月半、保健所の指導を受けながら感染対策にあたりました。入所者については感染拡大防止の対応により体力低下が進み、全体的な回復には2～3か月を要しました。職員についても罹患者が増え、日々の勤務体制の維持に通所職員の応援も受けながら特養現場を維持することとなりました。感染対策としてゾーニングカーテンの設置、空気清浄機の増設などを実施しました。

令和4年度の法人全体の事業活動の収支状況はサービス活動の収益、393,002,648円で、前年比11,551,594円の増収、サービス活動の費用、375,336,604円、前年比14,556,459円の増額となり、令和4年度サービス活動増減差額は、17,666,044円となり、経常増減差額は20,448,125円となりました。

特養は令和3年度に大きな改修を行いましたので、令和4年度は内装の改修など小規模な修繕を計画的に実施しました。施設の利用率については94.7%を維持できました。短期入所については、クラスター発生後の8月中旬～11月は利用を中止し、その他の月は入所時に抗原検査を実施し利用していただきました。職員の活動については、「働きがいの向上」を目指して業務改善に取り組み、実施後の成果や課題を県の事業所発表の場で報告することができ、現場での主体的な改善活動がすすみました。

通所介護事業所については、個浴室の増設を中心とした改修を行いました。今までは特養の風呂を共有していたので、感染症への配慮が必要でしたが、利用者の機能向上や利便性の面から通所事業所内に個浴槽を設けサービスの向上を図りました。事業運営については、地域密着の事業所として半日利用や曜日の変更などのきめ細かいニーズに対応しながら収益の確保に努めました。年間の平均利用率は85.6%となりました。

居宅介護支援事業所については、引き続きコロナ禍での訪問やケース会議など、人との接触の際には注意を払い相談活動を行いました。外部研修などはオンラインを利用した参加となりました。利用者の体調不良やコロナ感染による予定変更など関係事業所や家族との調整が大変でしたが、利用者に寄り添った支援を心がけました。年間の利用率は80.5%となりました。

### 重点目標のまとめ

#### 1) 効率的、安定的な事業運営

介護報酬の各種加算の確保、稼働率の目標達成。  
施設設備の継続的な整備・改修。（通所浴室の改修）

令和3年度の介護報酬改定以降、従来のような手厚い人員配置などに対する加算よりも介護保険が目指す「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止の取組の推進」等の方向に沿った加算要件が年々色濃くなっており、科学的な根拠に基づいた個別ケアや看取り対応等を効率的に取り組む事業所へ加算が取れるような仕組みになってきました。梅菅園においても令和4年度は科学的介護情報システム(LIFE)の運用を実施してきました。各専門職が利用者、入所者への個別的な対応と評価を実施し厚労省へ提出するもので、今年度は年間を通して実施し業務の中に定着してきま

した。

施設整備については通所介護事業所の浴室改修を7月から12月にかけて実施し無事完了しました。今後は特養との浴室の共用が無くなることで、感染対策も取り易くなります。

## 2) 危機管理体制の充実

新型コロナウイルス等をはじめとする感染症防止と感染対応の充実。

自然災害や火災等への対応と事業継続計画の充実。

特養においては8月16日から9月30日まで新型コロナウイルスの感染拡大(クラスター対応)により、保健所の指導の下に対応いたしました。入所者は施設内療養が基本となり、施設内での感染対策に色々な課題を感じることもとなりました。感染が落ち着いた後に、施設内へのゾーニングカーテン、空気清浄機を設置し基本的な感染防止対策の徹底を図りました。引き続き定例の感染症対策委員会等において最新の情報を基に対策を講じ感染予防に努めていきます。

事業継続計画については、クラスター対応からの学びを活かして各事業所の対策の充実につながるよう継続協議していきます。

## 3) 人材の確保と育成環境の整備

外国人技能実習生の雇用と育成。

人材確保活動の継続。

介護ケアの質の向上と教育の仕組みづくり。

研修・会議への積極的な参加。

外国人技能実習生については1年が経過します。履修が必須となる「介護技能実習評価試験(初級試験)」については実習生2名全員合格しました。日本語能力試験(任意)については、1名合格、1名は再チャレンジを予定しています。

人材の確保については、令和4年度もハロワーク、人材派遣・紹介会社、職員紹介等の様々な方法により確保に努めました。比較的落ち着いたはいるものの、急な退職や、産休・育休にて長期に休む職員があったので派遣職員や期間雇用など状況に応じた求人を出し人材確保に努めました。

## 4) 安心・安全なサービスの提供

介護現場の生産性と労働環境の向上。

サービス利用者の科学的データに基づく評価の実施。

看取り・認知症ケアの充実、地域包括ケアシステムの推進。

特養では昨年度に引き続き、介護現場の業務改善に取り組みました。特に個別ケアの充実を図ることとして、プロジェクトリーダーを中心に取り組んでいます。

令和3年度は、科学的介護情報システム(LIFE)への対応を構築し、令和4年度は加算をいただきながら運用してまいりました。現場での業務改善と併せながらより充実したケアにつなげていきます。

看取りについては、看取り介護加算の実施には至っていませんが、ケースごとにご家族、主治医等と話をしながら、病院ではなく施設で看取りをしました。認知症ケアについては、オンラインでの研修参加が主となり、地域包括ケアシステム推進についてもオンライン連携が主となりました。引き続き福祉、医療の関係機関との連携充実に努めます。

**【年間目標】**

- 1 業務改善に取り組み、入所者に楽しんで頂く時間を設けます。
- 2 1ケア・1手洗いの徹底、排泄物等の適切な処理、物品の衛生管理等、感染症予防対策に努めます。
- 3 入所者のプライバシーに配慮したケアを実施します。

**【実績報告】**

- 1 一か所に集まるのではなく食堂や廊下、ホールなど、ご利用者個々に合った場所で好きなことに取り組んで頂けるように環境を整えました。  
体操の種類を増やし、カラオケや玉入れなど小グループで取り組み楽しんで頂きました。
- 2 居室入り口に消毒器とプラスチック手袋を準備し、出入りの際の消毒とご利用者ごとのプラスチック手袋交換を周知、徹底しました。排泄介助時にはパットを入れる為に小さいバケツを用意し、物品は洗浄消毒し衛生的に保つようにしました。  
コロナ発生時にゾーニングごとに職員を分けるなど感染対策を行い、早期終息に努めました。
- 3 間仕切りカーテンや各ドアを閉めるなど基本的なことを新人職員や技能実習生に研修時や業務時に伝達し、介助時に利用者の羞恥心や尊厳に配慮した対応が出来るように伝達しプライバシー保護に努めました。

**【次年度への課題等】**

感染症蔓延防止により中止していた外出やクラブ活動等を再開しご利用者の日常生活が充実する様に取り組んでいきます。

ICTを活用しご利用者の状態を把握して事故予防や自立支援に繋がります。

**【年間目標】**

- 1 感染症予防研修を通じ全職員への啓発を行い、感染症まん延防止に努めます。
- 2 多職種との情報共有により、統一したケアを実施します。
- 3 体調、機能面での変化に即した対応を行います。

**【実績報告】**

- 1 クラスタ再発防止のため、小人数に分け手洗い、防護具の着脱手順、着脱場所について研修を行いました。すべてを忘れていた方はいなかったが、手順が曖昧な方が多く、繰り返し研修をしないと忘れてしまうという事がわかり、継続的な研修が必要と思われました。
- 2 カンファレンス時に、採血結果や既往歴から今後の体調の変化を予測し、サービス計画の立案を行いました。
- 3 体調変化に関して、既往歴、服薬状況等を看護内で対話し、日々の変化に対応する事で、リーダーのみの判断でなく対応の共有化が行えた。出勤していない看護職員にはグループLINEで情報の共有化を図ったが、LINEする、しないの判断が曖昧であったので、ルールを決めLINE報告を行う事としました。

**【次年度への課題等】**

- 1 感染予防の基礎である、手洗いに関して、マニュアル通り全職員ができ、防護具の着脱に関して直接処遇職員は習慣的にできるようになる。
- 2 採血結果、既往と現病から根拠をさらに明確化し、体調の変化を予測し、誰が担当になっても差のないサービス計画の立案が行える。
- 3 休日職員への情報共有としてグループLINEの活用を継続する。

**【年間目標】**

- 1 入所者の機能維持・向上を目的とし、評価・訓練を行います。
- 2 入所者の身体機能について多職種間で共有し、介護方法を検討します。
- 3 小集団での活動を取り入れ、入所者が楽しめる時間を設けます。

**【実績報告】**

- 1 個別の身体機能評価を行い、評価に伴う訓練を実施しました。特に臥床しがちになる方の関節の拘縮について評価を行い、カンファレンスなどで他職種と情報共有しました。
- 2 主に自力移乗される方の車椅子やベッドの高さについて介護職員と一緒に検討し、都度調整をしました。
- 3 テーブルに着いて頂いてボールを使用した小集団のレクリエーションを実施いたしました。普段より手が大きく動き、声も出て楽しく参加されました。

**【次年度への課題等】**

途中になっている小集団での活動について積極的に取り組み、ご利用者が楽しんで参加できる機能訓練の場を作ります。

定期的に身体機能の評価を行うことにより個別の介助方法の提案を行い、機能維持・向上を目指します。

**【年間目標】**

- 1 科学的介護推進情報システムを活用し、データに基づくケアの提供と質の向上のPDCAサイクルを構築します。
- 2 リスクマネジメント、感染症対策の指針に基づき、情報の共有、対応の統一を図ります。
- 3 入所者のご家族の思いを把握し、職員間で情報共有を推進することで、ニーズに合わせたケアを提供します。

**【実績報告】**

- 1 令和4年4月から科学的介護推進体制加算の算定を開始しました。多職種で連携し科学的介護推進に関する評価として、利用者ごとに日常生活自立度、傷病情報、ADL、口腔栄養、認知症を評価し、データの入力を行いました。
- 2 リスクマネジメントのため廊下、食堂に見守りカメラを設置し、事故の検証と予防策の検討に活用しました。同じ記録映像を職員が確認することで情報共有をおこないました。感染症対策として9月に職員アンケートを実施し、感染症対策の課題を検証しました。多数の意見が出た中で優先順位を決めエリア毎のケア、PHSの追加、廊下間仕切りカーテンの設置、居室水道の修理、見守りカメラの導入、空気清浄機の増設など改善を行いました。
- 3 感染症対策のため面会が制限されるなかで、コミュニケーションアプリ LINE を活用しご家族との連絡をおこないました。ご家族へ施設での様子を写真や言葉でお伝えし、問い合わせに対しても写真や介護記録をもとに迅速に報告を行いました。ご家族とのやり取りを文字で残せるため他の職員も経緯を把握しやすく、相談員以外の職員もご家族と連絡を行うことができるようになりました。

**【次年度への課題等】**

- 1 厚生労働省からのフィードバック情報が全国値であり、地域や規模ごとの比較や利用者の変化が読み取れるものとはなっていないため、情報活用が十分にできていない現状です。令和5年5月に厚生労働省から公表予定の情報の読み方、解釈に関するマニュアルを参考に情報活用を行います。
- 2 職員と課題意識を共有し、設備、業務のやり方、コミュニケーションの質を改善しながら課題を解決していきます。
- 3 ご家族へ施設での様子をわかりやすくお伝えするとともに、ご家族の思いを言葉や動画で利用者へお伝えできるようにします。



**【年間目標】**

- 1 季節や色彩を工夫し、おいしい食事を提供します。
- 2 手指洗浄・消毒、着衣清掃を徹底し、感染症まん延防止に努めます。
- 3 栄養マネジメントを行い、個々の栄養状態を把握し維持・改善に努めます。

**【実績報告】**

- 1 季節を感じるおせち・年越しそば、色彩豊かなばら寿司・茶わん蒸し、入所者に人気の焼きうどん、お好み焼きなど五感を通して食事を楽しんでいただけるように様々な献立を提供いたしました。
- 2 衛生、体調管理について委託業者にも協力を依頼し、外部からの感染防止を徹底しました。法人で行う感染症研修にも同様に参加して頂きました。
- 3 個々のマネジメントを速やかに実施し、体調不良の入所者には多職種と連携し、入所者の体調に合う食事形態の検討・変更をしました。

**【次年度への課題等】**

- 1 季節に合った食材や献立を提案・実施します。
- 2 日頃からスタッフ間で衛生管理の意識向上に努めます。
- 3 栄養マネジメントを確実にを行い、入所者の栄養の維持・改善に努めます。

## 年間事業報告

## 梅菅園短期入所生活介護事業所

## 【年間目標】

- 1 入所前の体調確認を行い、感染症まん延防止に努めます。
- 2 自宅での生活環境を把握し、ご利用時のケアに反映します。
- 3 入所者の様子をご家族、担当介護支援専門員へ報告し、継続利用につなげます。

## 【実績報告】

感染症まん延防止により今年度も新規の受け入れは中止し、定期利用の受け入れもR4年8月中旬から11月末まで中止していました。

- 1 利用前日に電話にて確認を行い、利用日は体温測定と抗原検査を実施しました。
- 2 担当介護支援専門員に確認を行いました。
- 3 利用予約時に自宅での様子を確認しています。利用中の様子はご家族に送迎時および連絡帳にて、担当介護支援専門員へはモニタリングにて報告を行いました。

## 【次年度への課題等】

感染症まん延防止のため長期間の新規受け入れを中止していた間、在宅から施設入所等により契約者数が減っているため、新規契約を増やし利用拡大に努めます。

## 特養・短期 年間行事実績

上期	事業内容	下期	事業内容
4月	花見(個別対応) 誕生会(4/27)	10月	小学校交流(中止) 誕生会(中止 紹介のみ)
5月	誕生会(5/25)	11月	運動会(中止) 誕生会(11/24)
6月	誕生会(6/29)	12月	クリスマス会(中止) 餅つき(12/23) 誕生会(12/22)
7月	誕生会(7/27)	1月	初詣(中止) とんど(1/20) 誕生会(1/20)
8月	盆法要(8/5) 誕生会(中止) ふれあいの集い(中止)	2月	節分(2/3) 誕生会(2/24) 本郷小学校DVD(2/24)
9月	敬老会(9/16) 誕生会(中止 紹介のみ)	3月	雛祭り(中止) 誕生会(3/23)

新型コロナウイルスまん延防止のためボランティア受け入れは中止しています。

## 年間事業報告

## 梅苜園通所介護事業所

## 【年間目標】

- 1 地域密着型として、様々な条件や状況にあわせたサービス提供を行い、ご利用者、ご家族に満足して頂けるように努めます。
  - (1) チームとして、多職種で意見交換し、統一したケアを目指します。
  - (2) 認知症の人への理解を深め、サービスの見直しや変更を行います。
- 2 住み慣れた地域で暮らし続けることができるように、自立支援を行います。
  - (1) ご利用者のニーズに応えることができるように努めます。
  - (2) ゆったりとした雰囲気落ち着いて過ごして頂けるように努めます。
  - (3) 生活機能の維持、向上を目指して機能訓練を行います。
  - (4) 運営推進会議を開催し、地域、家族、行政等と情報共有を行い、サービスの質の向上を目指します。
- 3 ご家族や居宅介護支援事業所と連携を図ります。
  - (1) 行事や広報活動を通して情報提供を行いながら信頼関係の構築に努め、ご利用者の増加を目指します。
  - (2) 日々のご利用者の状態や表情の変化に気付き、報告・連絡・相談に努めていきます。
- 4 ご利用者の体調管理を行い、感染症まん延防止に努めます。
- 5 施設内・外の研修に積極的に参加し、新しい情報を取り入れながらサービスの向上を目指します。

## 【実績報告】

- 1 年間で新規利用者数が13名になりました。ホームページの閲覧や、口コミで利用を決めた方がありました。また利用体験をして決めた方が7名あり高確率で新規に繋がりました。終了者は前年と比較して5名減少し年間利用率は85.6%となり前年から4.1%上昇しました。ご利用者の介護度は高くなり平均介護度は2.4となりました。
- 2 畑作業も定着し、野菜作りの継続を行いました。
 

7月からの改修工事が12月に終わり、1月より一般浴を個浴対応で実施しました。自宅での浴室環境に出来るだけ近付けるように工夫し、自立支援に繋がりました。

11月より科学的介護推進体制加算(LIFE)の取組を行い、ご利用者の身体状況等を作成しデータ提出しました。

午後からのレクリエーションの担当人数を変更し、バリエーションを増やしおやつ作りやしめ縄作りに挑戦しました。
- 3 月初めに居宅介護支援事業所へ報告書を提出する際に、デイサービスの広報紙(年4回)を一緒に渡しています。また、通所独自の携帯電話の活用を通して、家族や居宅との連携が図れやすくなりました。
- 4 感染症防止対策としては、基本的対策(マスク、手洗い、消毒、換気)を継続し、利用前には自宅での検温に協力頂き体調管理に努めました。
- 5 研修は今年度もWEB研修が中心となりました。
 

介護福祉士実習指導者講習会に参加し、実習生の受け入れ体制を整えました。

## 【次年度への課題等】

- 1 感染、事故防止に努めます。
- 2 地域密着の特色を生かし、柔軟に利用していただけるように努めます。
- 3 職員が意見を言いやすい職場を目指します。
- 4 意見交換を深め、統一したサービス提供を目指します。

## 通所 年間行事報告

上期	行事	下期	行事
4月	花見(4/4, 4/5) 誕生会(4/25)	10月	運動会(10/14)、誕生会(10/15)
5月	誕生会(5/25) おやつ作り(5/10)	11月	紅葉狩り(11/7、11/8) 誕生会(11/23)
6月	誕生会(6/28) おやつ作り(6/11)	12月	クリスマス会(12/24) 誕生会(該当者なし)
7月	七夕(7/7)、誕生会(7/21)	1月	初詣(橘神社)(1/8~13) 誕生会(1/30)
8月	納涼会(8/25) 誕生会(8/30) フラワー(8/13)	2月	節分(豆まき)(2/3) おやつ作り(2/21) 誕生会(2/15)
9月	誕生会(9/10)	3月	誕生会(3/3)

## 年間事業報告

## 梅菅園居宅介護支援事業所

## 【年間目標】

## 1 在宅生活継続への支援

住み慣れた地域で可能な限り、自立した日常生活を営むことができるように公正中立なケアマネジメントを確保し支援します。また、医療機関との連携を強化し、入退院時の情報収集・情報共有やカンファレンスへの参加を行います。サービス事業所との連絡を密に行い、本人の心身の変化に早期対応し、在宅生活が継続できるよう支援します。

コロナ感染拡大防止の為、電話やメールを活用し、訪問時間の短縮や担当者会議開催を減らし三密を避けるよう心掛け、その上で利用者に不利益にならないよう支援します。

## 2 ケアマネジメントの質の向上及び安定した支援体制づくり

適切なケアマネジメント支援を行う為に、諸研修に参加し、介護支援専門員としてスキル向上を図ります。また、事業継続できるよう主任介護支援専門員更新研修を受講し、職員体制を確保します。

## 3 関係機関との連携やネットワークづくり

地域の多職種連携会議への参加や市が導入している情報共有システムを活用し関係機関との連携を図ります。

## 4 運営基準等の法令を遵守し、適正な業務運営を行います。

## 【実績報告】

1 在宅支援について、行政や関係機関から指導を受けることはなく、利用者・家族からも苦情等はありませんでした。職員体制としては1名のケアマネジャーの定着が図れず、2名体制の事業所を一定期間1名で維持することとなり、体制が不十分な時期がありましたが、12月に主任ケアマネジャーを採用し安定した運営が可能となりました。1名体制の期間も業務は滞りなく進めることができました。

2 年間の収入は、予算を上回ることができました。昨年12月からは、月々の担当ケースが10件増え、70件（介護予防ケースを含む）を超えています。

3 コロナ禍で、包括支援センターや行政が開催する研修や会議は少なかったが、参加協力をしました。

4 主任介護支援専門員更新研修を受講しました。

## 【次年度への課題等】

1 主任ケアマネジャーを前年度採用することができ、担当件数が増えると同時に増収となっている。現状が維持できるように、包括支援センターや関係機関、地域の方々から信頼してもらえる事業所を目指します。

2 今後、長期的に職員体制が安定できるフォロー体制の構築が必要である。

3 支援している独居高齢者の災害時避難支援について、本人・家族と検討し、必要に応じて、地域の防災組織や民生委員と連携を図っていく。

人事に関する報告事項

1. 職員状況(令和5年3月31日)

職員総数

	正職員	準職員	嘱託職員	短時間	派遣職員	合計
R5.3.31在職職員	39	7	2	21	3	72

男女の割合

	男性	女性	合計
	15	57	72
	20.8%	79.2%	100.0%

各事業所の内訳

	介護職員					看護職員			機能訓練		生活相談員		介護支援専門員		栄養士	介助員	運転手		施設長・事務		
	正職	準職	嘱託	短時間	派遣	正職	準職	短時間	正職	準職員	正職	嘱託	正職	嘱託	正職	短時間	短時間	派遣	正職	準職	短時間
特養・短期	18	4	2	6	0	5	-	2	1	-	2	-	3	-	1	8	-	-	4	1	1
通所	2	1	-	4	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
居宅	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	20	5	2	10	1	5	1	2	1	0	3	0	5	0	1	8	0	2	4	1	1
	38					8			1		3		5		1	8	2	6			

※兼務する職員については主とする職種。

職員の平均年齢・勤続年数

職員の平均年齢	52歳7歳
職員の平均勤続年数	8年0ヶ月
介護職員の平均勤続年数	7年8ヶ月

※派遣職員は含まず

各職種の賃金状況(正職員)

令和5年3月実績

職 種	介護職員	看護職員	相談員	介護支援専門員
平均月額給料	270,847	273,370	307,467	269,043

資格取得者の状況

社会福祉士	5	看護師	6	認知症介護実践者研修	6
介護福祉士	(1) 31	准看護師	2	認知症介護実践リーダー研修	1
介護支援専門員	8	保健師	0	認知症介護管理者研修	2
精神保健福祉士	1	管理栄養士	1	特定行為業務従事者(略たん吸引)	11
社会福祉主事	2			認知症開設者研修	1
技能実習責任者講習	1	技能実習指導員講習	(1) 5	生活指導員講習	2

※派遣職員は含まず。( )内は当該年度取得人数。

## 2. 研修の状況(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

## 出張研修(オンライン研修を含む)

月日	研修内容	参加者数	部署
5月19日	排泄と栄養を考える	1	居宅
5月11日	技能実習指導員講習	1	特養
6月3日	令和4年度全国安全週間説明会	1	特養
6月5日	令和4年度広島県老人福祉施設職員セミナー	1	特養
7月27日	社会福祉施設における労働災害防止講習会	1	特養
7月、10月	令和4年度介護福祉士実習指導者講習会	1	通所
7月28日	入社時・退社時のトラブル防止、労働局の臨検対策	1	特養
7月10日	看護技術研修	1	特養
7月13日	令和4年度安全運転管理者講習会	1	特養
9月1日～11月21日	主任介護支援専門員更新研修	1	居宅
11月4日～25日	介護福祉士実務者研修	1	特養
2月1日～31日	全国老協研究会議	1	特養
3月28日	令和4年度地域密着型サービス事業者等集団指導研修	5	通所・居宅・特養
研修参加人数		17	

## 国内研修

月日	研修内容	講師	参加者数			
			特養	デイ	事務	居宅
5月9日～17日	接遇研修(介護における接遇5原則)	鳥越 小百合	47	-	4	-
5月23日	デイ 緊急時対応研修(送迎時の急変および事故についての確認)	前垣内 優子	-	9	-	-
6月16日～27日	褥瘡予防研修(拘縮を防ぐポジショニング、除圧の方法につ	合田 智恵子	41	-	-	-
7月22日	職場改善活動キックオフセミナー	動画視聴	19	-	-	-
7月14日～7月31日	感染症研修(手洗いのチェック)	山田 聡	50	7	11	1
7月13日、7月27日	医療ケア研修(食事介助のチェックポイント)	正月 明美	36	-	-	-
8月4日～8月25日	看取り介護に関する指針	鳥越 小百合	32	-	-	-
8月4日～8月25日	身体拘束廃止研修	鳥越 小百合	32	-	-	-
8月4日～8月25日	高齢者虐待防止研修	鳥越 小百合	39	8	8	2
9月17日～10月30日	事故防止研修(移乗介助研修)	榎野 智子	40	-	-	-
12月6日～12月29日	感染症研修(手指消毒・マスク、手袋の装着法、防護具の脱着手順と脱着場所に	山田 聡	51	11	12	2
2月14日～12月22日	褥瘡予防研修(重度化を防ぐポジショニング、シーティングの技術について)	合田 智恵子	39	-	-	-
3月1日～3月22日	高齢者虐待防止研修(要介護施設従事者等による高齢者虐待防止について)	鳥越 小百合	46	7	10	1
3月7日～3月27日	事故防止研修(食事介助・移乗介助の注意点について)	榎野 智子	35	-	-	-
研修参加人数			507	42	45	6

## 3. 地域公益活動(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

## 梅菅園出張出前講座

月日	講座内容	派遣先	参加者
7月14日	特別養護老人ホーム梅菅園の紹介・適度な運動について	松原桃源会館	15
12月8日	特別養護老人ホーム梅菅園の紹介・適度な運動について	善入寺けんこうクラブ	8
参加人数			23

## 事業運営に関する報告

## 特別養護老人ホーム梅菅園

## 1. 入所者の状況(令和5年3月31日現在)

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均要介護度
0	2	17	30	29	78	4.1
0.0%	2.6%	21.8%	38.5%	37.2%		-

## 男女の割合

男性	女性	合計
7	71	78
9.0%	91.0%	

## 年齢

最長	最少	平均
102	58	87.8

## 入所者の在籍日数

最多	最少	平均
7,715	4	1,245

## 入所前の居所

三原市内		竹原	尾道	東広島	その他	合計
旧本郷町	その他					
32	41	4	0	1	0	78

## 2. 入退所の状況(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

## 入所者

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均待機日数
0	0	7	15	9	31	287

## 退所者

死亡	長期入院	他施設入所	その他	合計	平均在籍日数
24	6	0	0	30	1489

## 3. 令和4年度利用状況(介護報酬基本部分を算定した日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数(※1)	79	78	78	77	77	75	72	77	77	78	79	79	-
延人数	2,252	2,274	2,247	2,337	2,318	2,137	2,110	2,131	2,304	2,344	2,136	2,371	26,961
前年対比(%)	4.0%	0.4%	2.1%	1.4%	3.1%	-2.0%	-8.9%	-6.4%	-2.5%	-0.6%	3.6%	4.6%	-0.2%
利用率(※2)	96.2%	94.0%	96.0%	96.7%	95.9%	91.3%	87.3%	91.1%	95.3%	96.9%	97.8%	98.1%	94.7%

(※1)介護報酬を請求した利用者数

(※2)利用率=延人数÷(78床×月日数)



## 梅菅園短期入所生活介護事業所

## 1. 利用状況(令和4年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	1	2	1	1	1	0	0	0	1	0	1	3	-
延人数	2	4	2	3	1	0	0	0	3	0	3	10	28
前年対比(%) <sup>(※1)</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-52.5%
利用率 <sup>(※1)</sup>	1.7%	3.2%	1.7%	2.4%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	2.7%	8.1%	1.9%
平均介護度 <sup>(※2)</sup>	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	-	-	-	2.0	-	0.0	2.2	1.7
新規利用者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2

(※1)利用率＝延人数÷(4床×月日数) 前年度利用者0の月があるため年で算出

(※2)要支援は除く

## 梅菅園通所介護事業所

## 1. 利用状況(令和4年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
(総合)実人数	6	6	5	5	4	4	5	7	7	7	7	7	-
(総合)延人数	47	39	38	36	27	25	40	46	47	46	48	51	490
(介護)実人数	32	31	31	30	32	30	30	31	30	27	31	31	-
(介護)延人数	378	390	359	356	410	367	395	386	363	316	335	372	4,427
合計実人数	38	37	36	35	36	34	35	38	37	34	38	38	-
合計延人数	425	429	397	392	437	392	435	432	410	362	383	423	4,917
前年対比(%)	20.1%	25.4%	5.0%	-2.7%	10.9%	2.9%	19.2%	15.2%	8.2%	0.3%	3.2%	2.4%	8.9%
利用率	90.8%	91.7%	84.8%	80.7%	93.4%	83.8%	89.5%	96.0%	91.1%	83.8%	88.7%	87.0%	85.6%
平均介護度 <sup>(※1)</sup>	2.1	2.3	2.5	2.4	2.5	2.4	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.4	2.4
新規利用者	1	0	1	1	1	0	1	4	0	0	3	1	13

(※1)要支援は除く

## 梅菅園居宅介護支援事業所

## 1. 利用状況(令和4年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護給付件数	51	50	54	56	55	56	57	57	65	65	66	66	698
前年対比(%)	34.2%	19.0%	25.6%	19.1%	14.6%	16.7%	16.3%	16.3%	27.5%	22.6%	26.9%	26.9%	22.0%
介護予防受託件数	9	9	8	8	7	8	8	8	10	11	10	15	111
前年対比(%)	-35.7%	-43.8%	-50.0%	-42.9%	-36.4%	-27.3%	-20.0%	-20.0%	0.0%	22.2%	25.0%	66.7%	-19.6%
利用率 <sup>(※1)</sup>	71.2%	69.9%	74.4%	76.9%	75.0%	76.9%	78.2%	78.2%	89.7%	90.4%	91.0%	94.2%	80.5%
認定調査件数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
新規利用者 <sup>(※2)</sup>	1	1	5	2	2	2	1	0	11	0	4	1	30

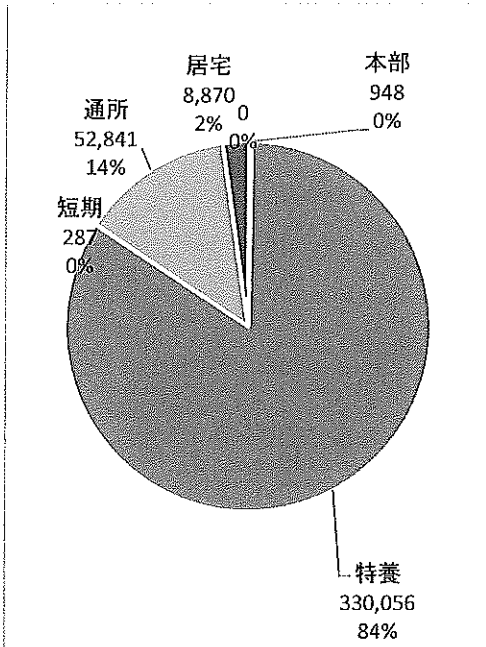
(※1)利用率＝(介護給付費件数＋介護予防受託件数×1/2)÷(39件×2人)

(※2)介護予防利用者は除く

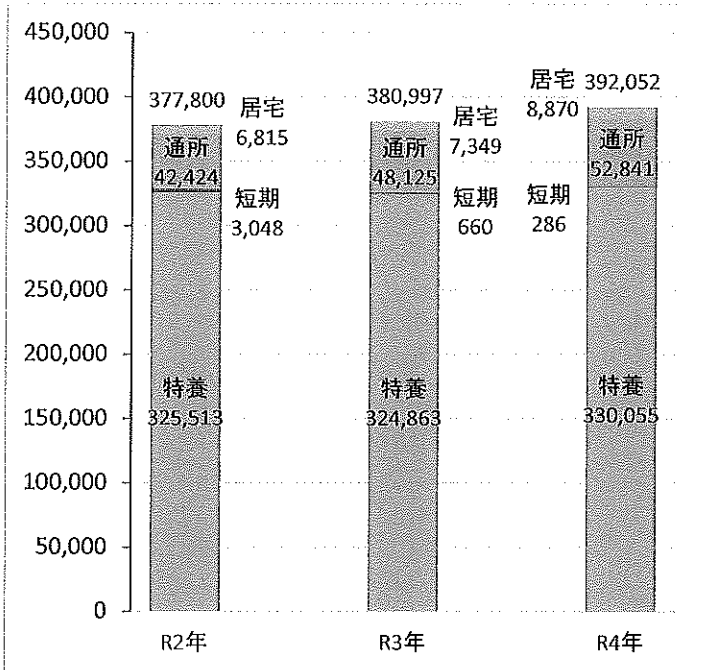
各事業の収益、費用の状況(令和4年度)

サービス活動収益 393,002,648 円

事業所別構成比 (単位:千円)

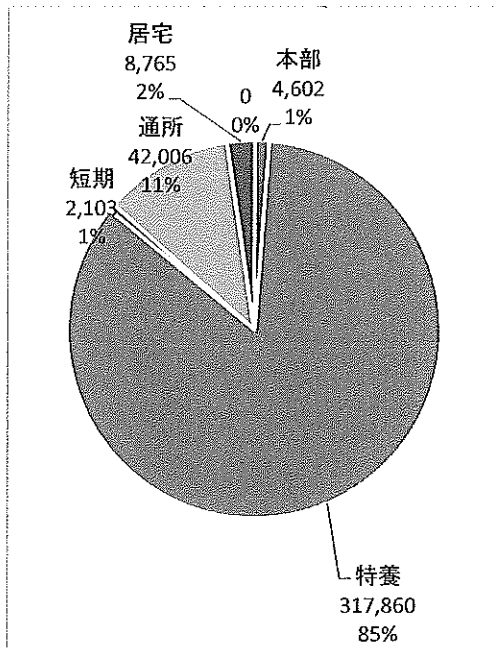


各事業所サービス活動収益の推移 (単位:千円)

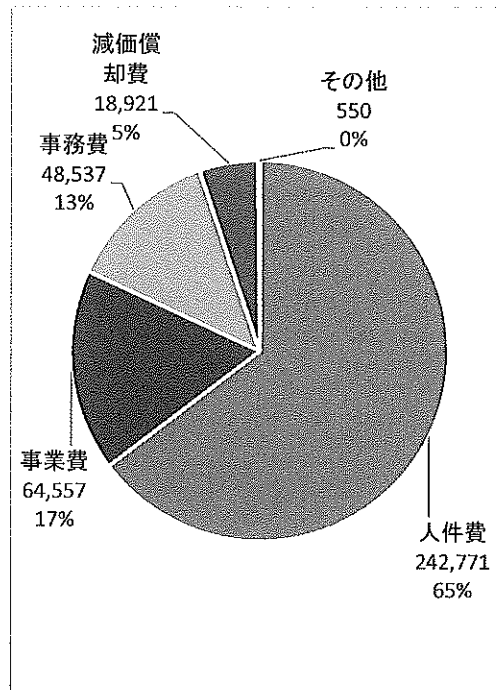


サービス活動費用 375,336,604 円

事業所別構成比 (単位:千円)



費目別構成比 (単位:千円)



減価償却費は国庫補助金等特別積立金(17,712千円)分を減額した後の数字。

## 損益・財務に関する報告

貸借対照表(令和5年3月31日現在)

事業活動計算書・資金収支計算書(自令和4年4月1日 至令和5年3月31日)

(単位:千円)

貸借対照表	令和4年度	令和3年度	令和2年度	年増減率	他法人比較(※)
流動資産	295,164	281,561	261,444	4.8%	273,256
現金預金	228,662	217,462	199,545	5.2%	172,417
固定資産	768,111	776,130	800,181	-1.0%	824,617
積立資産	114,656	115,013	158,943	-0.3%	72,644
流動負債	29,574	27,910	25,406	6.0%	70,098
短期運営資金借入金				-	1,983
役員等短期借入金				-	157
1年以内返済予定長期運営資金借入金				-	1,238
1年以内返済予定役員等長期借入金				-	25
固定負債	14,164	12,981	13,549	9.1%	181,608
設備資金借入金				-	140,478
長期運営資金借入金				-	11,590
役員等長期借入金				-	477
純資産	1,019,536	1,016,801	1,022,669	0.3%	846,167
事業活動計算書	令和4年度	令和3年度	令和2年度	年増減率	他法人比較(※)
経常経費寄附金収益	948	453	523	109.3%	319
人件費	242,771	237,825	220,844	2.1%	228,596
福利厚生費	1,640	1,741	1,611	-5.8%	0
業務委託費	30,396	31,413	30,418	-3.2%	19,290
事業費	64,556	56,047	53,675	15.2%	55,586
減価償却費	36,634	36,098	28,403	1.5%	30,993
国庫補助金等特別積立金取崩額	-17,712	-18,020	-18,078	-1.7%	-11,593
サービス活動収益	393,002	381,451	378,324	3.0%	346,699
サービス活動費用	375,336	360,780	329,057	4.0%	340,189
サービス活動増減差額<自動計算>	17,666	20,671	49,267	-14.5%	6,510
サービス活動外収益	3,265	568	1,016	474.8%	2,139
サービス活動外費用	483	488	10,578	-1.0%	2,036
サービス活動外増減差額<自動計算>	2,782	80	170	3377.5%	104
経常増減差額<自動計算>	20,448	20,751	49,437	-1.5%	6,614
特別増減差額	0	-8,599	50	-100.0%	-
当期活動増減差額<自動計算>	20,448	12,152	49,487	68.3%	6,614
次期繰越活動増減差額	696,584	675,636	618,804	3.1%	360,708
資金収支計算書	令和4年度	令和3年度	令和2年度	年増減率	他法人比較(※)
事業活動資金収支差額	40,906	40,339	50,782	1.4%	-
施設整備等資金収支差額	-27,952	-65,677	-5,040	-57.4%	-
その他の活動資金収支差額	258	43,806	-50,084	-99.4%	-
当期資金収支差額<自動計算>	13,212	18,468	45,133	-28.5%	-
当期末支払資金残高	278,858	265,647	247,179	5.0%	-
財務指標(計算結果)	令和4年度	令和3年度	令和2年度	年増減率	他法人比較(※)
<短期安定性> 流動比率	998.1%	1008.8%	856.9%	-1.1%	389.8%
<長期安定性> 純資産比率	95.9%	96.1%	95.4%	-0.2%	77.1%
<コスト合理性> 人件費率	62.3%	62.9%	60.0%	-0.9%	66.0%
<コスト合理性> 委託費率	7.8%	8.2%	7.9%	-5.5%	5.6%
人件費率+委託費率	70.1%	71.1%	67.9%	-1.4%	71.6%
<長期安定性> 固定長期適合率	74.3%	75.4%	76.2%	-1.4%	80.2%
<収益性> 経常増減差額率	5.2%	5.4%	9.5%	-4.4%	1.9%
<借入の割合> サービス活動収益対運営資金借入金比率	0.0%	0.0%	0.0%	-	4.5%
労働分配率	87.9%	87.0%	82.9%	1.0%	90.7%

※他法人との比較は公益社団法人全国老人福祉施設協議会・老協協総研「介護老人福祉施設等令和3年度収支状況調査報告書」の内、特養定員規模別51人～80人の調査結果を使用。当該調査に記入の無い科目は空欄にしている。

第1号議案

令和4年度計算書類等及び財産目録の承認について

令和4年度計算書類等及び財産目録の承認を求める。

令和5年6月21日提出

社会福祉法人 本郷福祉会  
理事長 平原 榮